

**様式1** ※「部門Ⅰ」と「部門Ⅱ」に共通の様式です。必ずご記入ください。

**第9回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラム 助成申請書**

2017年10月15日

阪急阪神ホールディングス株式会社に対し、つぎのとおり申請します。

団体名	ゆめ・まち自然学校	代表者名	夢 まちこ	団体印 または 代表者印
-----	-----------	------	-------	--------------------

**■申請分野・部門**

【申請分野】

※AかBのいずれかを選択して「○」をつけてください。活動分野がまたがる場合は、主に取り組んでいる分野に「◎」を、その他の分野に「○」をつけてください。

<input type="radio"/>	A 地域環境づくり	<input checked="" type="radio"/>	B 次世代の育成
-----------------------	-----------	----------------------------------	----------

【申請部門】

※部門Ⅰか部門Ⅱのいずれかを選択して「○」をつけてください。

<input type="radio"/>	部門Ⅰ(助成額:50万円)	<input type="radio"/>	部門Ⅱ(助成額:100万円)
-----------------------	---------------	-----------------------	----------------

**■団体情報・連絡先**

団体の事務所 所在地 ※個人宅の場合は、宛名 までお書きください。	〒530-0012 大阪市北区芝田 1-16-1		
	TEL 06-6373-0000	FAX 06-6373-0000	
	e-mail ●●●@△△△		
書類送付先 ※個人宅の場合は、宛名 までお書きください。	〒540-0012 大阪市中央区谷町 2 丁目○-○ ●●様方		
担当者	ふりがな ゆめ まちこ		
	氏名 夢 まちこ		
	TEL 06-6373-0000	FAX 06-6373-0000	
	携帯電話 090-0000-0000	e-mail ●●●@△△△	

**■提出書類（各1部ずつご提出ください）**

※↓提出する書類に○印をつけてください。a~gは提出必須です。

<input type="radio"/>	必須	a 助成申請書(様式1、様式2、様式3) *様式3は「部門Ⅱ」応募団体のみ	<input type="radio"/>	必須	f 直近の財産目録(作成している団体のみ)
<input type="radio"/>	必須	b 組織の規約を示すもの(定款・会則等)	<input type="radio"/>	必須	g 団体概要(パンフレット、HPなど)
<input type="radio"/>	必須	c 直近の事業報告書(過去1年以上の活動履歴がわかる資料)	<input type="radio"/>	任意	h 直近の事業計画書
<input type="radio"/>	必須	d 直近の決算書(過去1年以上の収支がわかる資料)	<input type="radio"/>	任意	i 直近の予算書
<input type="radio"/>	必須	e 直近の貸借対照表(作成している団体のみ)	<input type="radio"/>	任意	j ニュースレターやチラシなど

[記入上の注意]

1. 申請書は、すべて片面印字・A4サイズとしてください。提出部数は1部です。
2. 各様式に必要な情報を記載し、指定の分量(様式1・2をあわせて4ページ。様式3のみで2ページ程度)の範囲でまとめてください。各記入欄の大きさは適宜変更しても構いませんが、読みやすくまとめてください。
3. 応募書類は返却できませんので、必ず控えをお取りください。
4. 提出書類は全て、ホッチキス留めではなく、クリップ留めにしてください。

**様式2** ※「部門Ⅰ」と「部門Ⅱ」に共通の様式です。必ずご記入ください。

ふりがな	ゆめ・まちしぜんがっこう
団体名	ゆめ・まち自然学校
主な事業内容 (50字程度)	自然環境の保全のために、主に子どもたち・親子を対象に、自然体験教室や観察会等を実施。
URL	http://www.yume-machi.ns.jp/
団体設立	西暦 1999 年 4 月 設立 ※2015 年 3 月以前に設立した団体が対象です。

**1. 活動実績** ※団体助成のため、団体が行う全事業を対象にお書きください。

①活動地域について、該当する市町をすべて○で囲み、その他の地域での活動があればお書きください。
【沿線地域】 京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、 <u>大阪市</u> 、 <u>豊中市</u> 、 <u>池田市</u> 、吹田市、高槻市、茨木市、 <u>箕面市</u> 、摂津市、島本町、 <u>豊能町</u> 、神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、猪名川町
【その他の地域】 国内(都道府県)： 宮城県、海外： ベトナム
②団体の活動の目的は何ですか？
自然体験等を通して、次代を担う子どもたちを中心とする人々に環境保全の大切さを伝え、将来に亘って豊かな自然環境を保全することを目的とする。
③活動をとりまく社会的背景についてお書きください。
現代の便利な生活は、多くの自然環境を犠牲にして成り立っており、自然環境の保全に配慮した持続可能な社会にしていけるには、これまでの生活スタイルや価値観を見直し、意識と行動を変える必要がある。そのためには、次代を担う子どもたちに、豊かな自然の大切さを伝え、環境を守る意識を育てることが重要であるが、これが難しい状況にある。まず、特に都市部においては、自然と触れあえる機会が身近に無く、自然がもたらす豊かさやその恩恵を知る機会が少ない。また、子どもたちに自然のなかで様々な体験をしてほしいと望む親は多いが、親自身にそのような体験が少ないため、子どもたちに自然体験の機会を提供しにくいのが現状である。そこで、こういった状況を打破すべく、子どもたちとその親世代を中心に、自然体験のプログラムを提供し、また教え伝える側(リーダー)として活躍できる人材を養成することで、環境保全の重要性を啓発する活動が求められている。
④団体の活動内容について、活動頻度や参加者数などが分かるよう具体的にお書きください。
【2016 年度の主な活動内容(沿線地域)】* 箇条書きでお書きください。
①自然体験教室(子ども向け、親子向け:月 2 回ずつ計 48 回開催、年間参加者のべ 1,400 名)
②自然観察会(子ども向け、親子向け:月 1 回ずつ計 24 回開催、年間参加者のべ 540 名)
③リーダー養成講座、スキルアップ講座(子ども向け、大人向け:年 4 回ずつ計 16 回開催、年間参加者のべ 480 名) ※自然体験教室等の運営に関わるリーダーとなる人材を育成・スキルアップさせる講座
④△△山キャンプ場の管理運営(〇〇市の指定管理者、年間 300 日運営)
⑤企業の社員研修(コミュニケーション力アップ研修)の実施(3社より受託、参加者のべ 100 名)
⑥情報誌「ゆめ・まち自然学校通信」の発行(月 1 回計 12 回発行)
⑦講師の派遣(教育委員会、PTA、子ども会等からの依頼、年間 40 件)
⑧環境NPOネットワーク会議の事務局(10 団体が所属、月 1 回計 12 回開催)
【2016 年度の主な活動内容(その他の地域)】* 箇条書きでお書きください。
①自然体験キャンプ(チャリティイベントで繋がったNPOと共催で宮城県にて年 2 回開催。年間参加者 80 名)
②ベトナム植樹ボランティアツアー(環境NPOネットワーク会議の団体と共催で年 1 回開催。年間参加者 20 名)
2016 年度の主催事業の年間参加者数 計 延べ 約 <input type="text" value="2,600"/> 人(スタッフ含む) ※概数で結構です
2016 年度の年間活動日数 計 約 <input type="text" value="300"/> 日
【上記以外の過去に取り組んだ活動内容】* 主要な順に箇条書きでお書きください。
・環境NPOネットワーク会議の参加団体の共催で、東日本大震災のチャリティイベント「自然ふれあいフェスティバル」を開催し、参加費の一部を被災地支援団体へ寄付(2011 年度、参加者 400 名、40 万円を寄付)
・市民提案事業として、〇〇市から△△山の自然環境調査を受託(2013 年度)

**⑤ ④の活動によって、社会や活動の参加者がどのように変化しましたか？**

・参加者の環境に対する意識の向上

自然体験教室や自然観察会の参加者に対するアンケートでは、「水がおいしい！この水をもたらし自然環境を守りたい」「身近に豊かな自然があることを知ることができて良かった」「自分にもできることとして、リサイクル活動などに取り組みたい」などの感想が寄せられており、活動を通じて参加者に豊かな自然の大切さを伝え、環境を守る意識を向上させることができた。

・参加者のすそ野の広がりや自然環境の保全

リーダー養成や各地への講師派遣、環境NPOネットワーク会議での連携等により、より多くの人々に環境保全の大切さを伝えることができ、その結果、自然環境を守る一助となれた。

**⑥ 今までに受けた助成金、主な受賞歴をお書きください。**

○△基金「環境教育プログラム開発事業」(スキルアップ講座の開発、2013年度、助成金額 100 万円)

■◇助成金「環境活動助成」(自然観察会で使用する道具の購入、2016年度、助成金額 30 万円)

**2. 活動計画 ※団体助成のため、団体が行う全事業を対象にお書きください。**

**① 2017 年度に力を入れている取り組みをお書きください。**

- ・自然体験教室の参加者層拡大のため、内容を見直し、より分かりやすく楽しく学べるように刷新する。
- ・自然体験教室や観察会の開催地域を増やすために、リーダー養成講座の開催頻度を増やし、リーダーの人数を増強する。

**② 2018 年度に力を入れたい活動をお書きください。**

- ・スキルアップ講座の内容を充実させ、新しくリーダーになった層を中心に参加を呼びかけ、リーダーの質の向上に取り組む。
- ・ひとり親家庭向けのプログラム実施のための助成金獲得、および寄付の呼び掛け(詳細は、様式3を参照)。

**3. 助成金の用途・効果**

**① 助成金を何に使いますか？**

経済的に困難な状況にあり、参加費等の負担が厳しいひとり親家庭の子どもたち・親子にも参加の機会を提供できるよう、プログラムの開催経費として使用したい(詳細は、様式3を参照)。

**② 助成金を使うことによって、どんな効果が期待できますか？**

近隣市町村の教育委員会やPTA等との懇談のなかで、「子どもの貧困」のことが話題になっており、当校でも何かできることを模索していた。このプログラムが実施できると、通常のプログラムでは、参加費の負担が厳しく参加をあきらめてきた子どもたち・親子にも、自然の中で豊かな経験をしてもらうことができる。また、その子どもたちがプログラムに参加することによって、環境保全に携わる仕事を選択したり、身近に接する大人以外の人と出会い、ロールモデルとなる大人を見つけることができるなど、子ども自身の将来にも大きな影響を与える効果が期待できる。

**4. 地域との連携、その他**

**① 他の市民団体・企業・自治体等とどのように協力していますか？**

- ・環境保全に取り組む近隣のNPOと共に「環境NPOネットワーク会議」を実施。
- ・企業3社より社員研修の企画受託。
- ・〇〇市より△△山キャンプ場の指定管理を受託。

**② 団体の強み、アピールポイントについてお書きください。**

自然体験教室の開催は、任意団体時代から 20 年以上継続しており、これまで教室に参加した子ども・親子は 10,000 人を超えている。また、長年の地道な活動により、近隣市町村の教育委員会やPTA等と信頼関係を築いており、多くの講師派遣や委託等の依頼がある。その他、環境NPOネットワーク会議の事務局を担うなど、環境保全に取り組むNPOとのネットワークがあり、連携して様々な取り組みを行っている。

## 5. 団体の収支 ※団体助成のため、団体全体の収支をお書きください。

	2015年度 (2015年4月～2016年3月)	2016年度 (2016年4月～2017年3月)	2017年度(予算) (2017年4月～2018年3月)
前年度繰越金	500,000	700,000	1,500,000
会費・寄付	2,000,000	2,500,000	3,000,000
事業収入	8,000,000	10,000,000	15,000,000
補助金・助成金	2,000,000	20,000,000	20,000,000
その他収入	100,000	100,000	100,000
収入合計(単位:円)	12,600,000	33,300,000	39,600,000
人件費	4,600,000	18,000,000	23,000,000
事業支出	5,400,000	8,600,000	10,400,000
事務所経費 (賃借料・水道光熱費等)	1,800,000	5,000,000	5,000,000
その他経費	100,000	200,000	200,000
次年度繰越金	700,000	1,500,000	1,000,000
支出合計(単位:円)	12,600,000	33,300,000	39,600,000

※各年度で、収入合計と支出合計は同額にしてください。

## 6. 運営体制

①代表者			
代表者氏名	ふりがな ゆめ まちこ 夢 まちこ	役職	理事長
代表者略歴	〇〇大学△△学部卒。□□株在職中の1980年から地域の環境保全活動に携わる。1990年当校の立ち上げに関わり、専従スタッフに。1999年に法人化、2012年より現職。環境NPOネットワーク会議の理事も務める。		住所(市区町村のみ) 大阪市
②役員・会員名(5名まで、代表者以外をお書きください)			
役職	氏名	他の活動団体・所属団体等	住所(市区町村のみ)
副理事長	阪急 歌子	〇〇大学非常勤講師	豊中市
理事	阪神 虎夫	△△環境委員会理事	大阪市
理事	阪急 鉄子	会社員	京都市
会員	阪神 鉄郎	特定非営利活動法人□□理事	神戸市
会員	阪急 夢	会社員	大阪市
③会員数等			
会員数	400人		
ボランティア数	150人		
事務局スタッフ数 ※有償無償問わない	10人(内、専従者数5人)		
④組織運営における強み、アピールポイント、工夫、努力などについてお書きください。			
当校の理事・会員には、大阪を中心とした関西で環境保全に取り組むNPOのメンバーが多くおり、各NPOと連携して事業に取り組むことができる。また、団体運営は150人のボランティアによって支えられており、事業の運営、見直しなどは、ボランティアと事務局が連携して取り組んでいる。ボランティアに対しては、オリエンテーションや研修等を実施しており、それらの場でボランティア同士が情報交換できるよう工夫している。			

## 7. アンケートのご協力をお願い

阪急阪神 未来のゆめ・まち基金をどこで知りましたか？当てはまるもの全てに○印・記述をお願いします。

1. 電車の中吊りポスター	2. ちらし (設置場所は？ ・駅 ・その他)	)
3. 情報誌 (名称は？ ・「TOKK」 ・その他)		)
4. ホームページ (どこのホームページ？ ・阪急阪神ホールディングス ・その他 大阪ボランティア協会)		)
5. メールマガジン (どこのメルマガ？)		)
6. 知人に聞いて (誰から？)		)

**助成申請書の提出締め切りは、2017年10月23日(月)17時です。(助成事務局必着)**

※情報の取扱いについて：提出いただいた資料に記載された個人情報、本事業の主催者(阪急阪神ホールディングス株式会社)及び助成事務局(社会福祉法人大阪ボランティア協会)において管理し、本事業運営・審査・団体への連絡に使用します。この用途以外に使用することはありません。

**4** ※各記入欄の幅は伸縮しても構いませんが、指定の分量(様式1・2をあわせて4ページ)の範囲で、読みやすくまとめてください。

**様式3** ※「部門II」に応募の場合のみご記入ください。

**1. 主要な事業について**

①現在取り組んでいる主要な事業について、その考え方、事業内容、事業の目標と成果、効果などをお書きください。

■事業に対する考え方

自然環境の保全に配慮した持続可能な社会にしていくには、これまでの人々の生活スタイルや価値観を見直し、意識と行動を変えることから始めなければならない。しかし、特に都市部においては、自然に触れる機会が身近にないことや、自らの経験を基に子どもに自然体験を提供できる親世代の減少などから、意識や行動を変えるまでに至らないという課題がある。そこで、この課題を解決するために、自然体験教育事業と環境教育人材養成事業を両輪として、以下の3点を重点に活動を実施している。

- ①次代を担う子どもたちと、子どもたちに大きな影響を与える親を重点として、自然体験等のプログラムを提供し、家族で環境保全に対する意識や行動を変え、次の世代に繋げることを目指す。
- ②楽しく学べるプログラムであることはもちろんのこと、一時の体験や学びに終わらないために、プログラム体験後に各自で継続できることを取り入れたプログラムにする。
- ③関心を持った子どもたちや、親、教員、学生などが、より深く学び、教え伝える側(リーダー)として活躍できるよう養成講座やスキルアップ講座を実施する。

■事業内容

【自然体験教育事業】

- ・自然体験教室(子ども向け、親子向け):自主事業、教育委員会等の委託事業、講師派遣等で実施。
- ・自然観察会(子ども向け、親子向け):自主事業、教育委員会等の委託事業、講師派遣等で実施。

【環境教育人材養成事業】

- ・リーダー養成講座(子ども向け、大人向け):体験教室や観察会の受講者のほか、一般からも参加。
- ・スキルアップ講座(子ども向け、大人向け):リーダーのステップアップの場として、様々なテーマで実施。

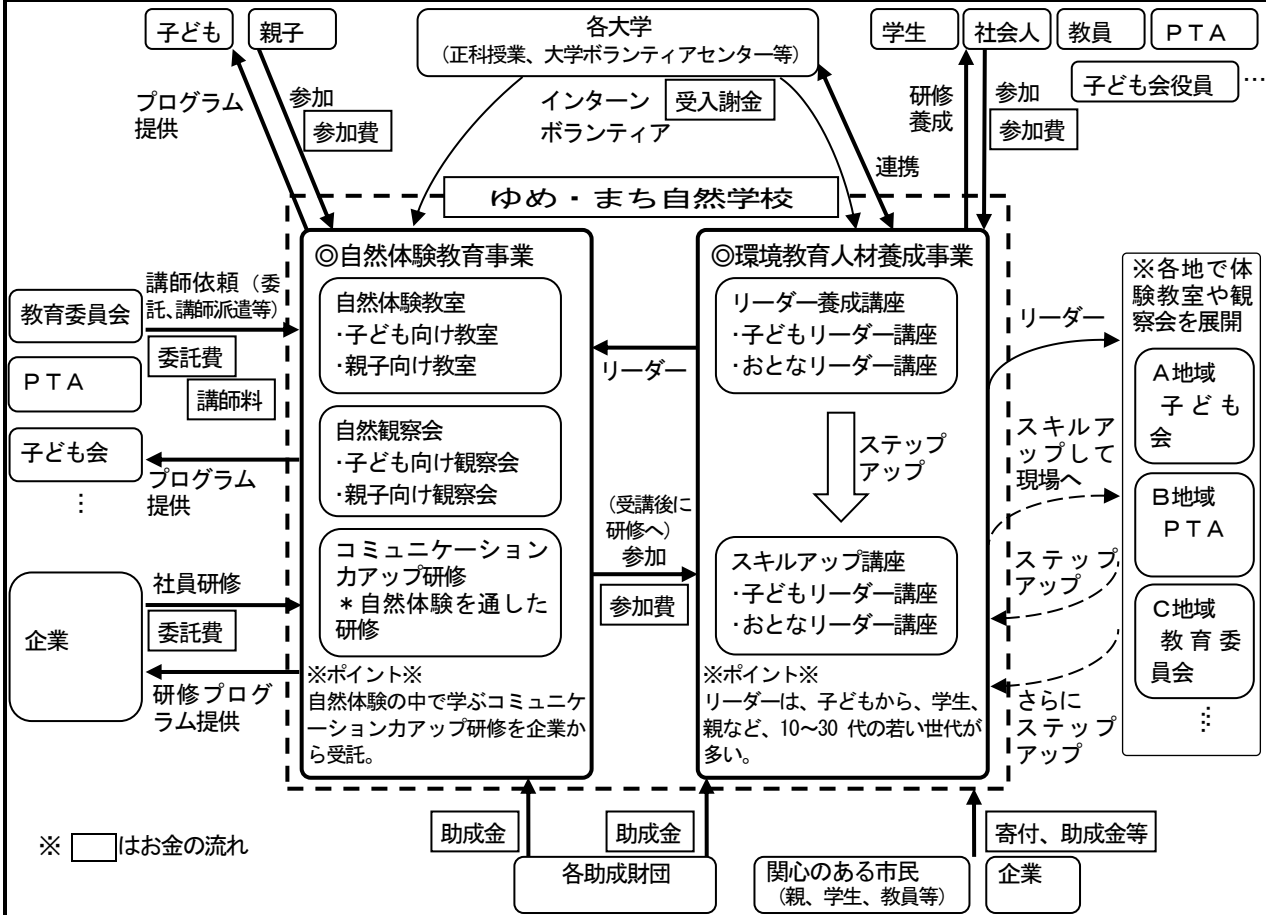
■事業の目標、成果、効果

【目標】今後5年間で子どもを持つ家族2000世帯が体験教室等に参加し、その内の5%がリーダーになる。

【成果】体験教室等に参加した2000世帯の意識が、環境保全にとって良い行動を行うように変化する。

【効果】参加者の行動が変容し、その周りにも影響が広がり、その地域における環境保全が進む。

②主要な事業について、人(組織)やお金(資金)の流れや、連携・協力者の関与などが分かるよう図示してください。※「ビジネスモデル」のイメージでお書きください。手書き可。



5 ※各記入欄の幅は伸縮して構いませんが、指定の分量(様式3のみで2ページ程度)の範囲で、読みやすくまとめてください。



## 2. 他セクターとの協働事業について

①他セクター（行政、企業など）との協働事業のうち特徴的なものについて、その事業内容や予算規模、協働パートナーとの役割分担、協働の成果などについてお書きください。

■事業名:コミュニケーション力アップ研修事業

■協働相手:○×株式会社、■予算規模:100万円(年間8回実施)

■事業内容:社員研修(コミュニケーション力アップ研修)の企画、実施。当学校が実施している自然体験教室のプログラムを通して、コミュニケーション力アップを図る研修で、○×株式会社の新入社員研修として実施。

■役割分担:研修内容は、当学校の基本プログラムをもとに企業担当者と協議しながら決定した。研修の当日運営は企業担当者が主に司会進行を担当、当学校は研修講師などを担当した。終了後に振り返りを実施し、次回研修に活かした。

■協働の成果:研修の企画から当日運営まで、企業担当者と丁寧な打合せを経て実施したため、研修目標を達成でき、参加者の満足度も高かった。当学校としても、通常とは違う参加者層を開拓でき、環境保全への意識を高めてもらった。

現状把握

相談・協議

プログラム  
設計

研修実施

振り返り

現状把握  
に続く...

## 3. 団体の将来展望とその実現に向けて

①概ね5年後に目指したい組織・活動の姿(中期ビジョン)をお書きください。

これまで多くの子ども・親子に参加してもらってきたが、今後はこれまでの枠組みでは参加しにくかった人や多様な子どもたちが参加しやすいようなプログラムの開発や研修に取り組む。具体的には以下の3点に取り組む。

①経済的に困難な状況にあり、参加費等の負担が厳しいひとり親家庭の子どもたち・親子も参加できるよう、ひとり親家庭向けのプログラムを実施する。また、その実施のための寄付募集や助成金申請等を模索する。

②障がいのある子どもたちが不安なく参加できるよう、対応方法等を学ぶスキルアップ講座を実施し、ボランティアスタッフのレベルを向上させる。

③上記の活動をスムーズに運営するため、事務局スタッフ、ボランティアスタッフを増強する。

②中期ビジョン実現に向けた、組織づくり、人づくり、資金づくりなどの考え方や工夫、努力などについてお書きください。

リーダー養成・スキルアップ講座は従来から行っているが、中期ビジョンの実現に向け、人員増加等により事務局体制を整え、ボランティアスタッフの社会課題への理解度の向上と、困難な状況下における子どもたちにも対応できるスキルアップの強化に取り組んでいきたいと考えている。また、事務局体制の増強にあわせて、活動を支える支援的財源(助成金、寄付)を増やすための努力も強化し、本助成金についても、採択されたら、ひとり親家庭の子どもたち・親子を対象としたプログラムの実施に活かしていきたいと考えている。

### ■組織づくり

- ・【これまで】理事会の開催頻度を月1回に増やし、迅速に事業を推進する体制を整えた。
- ・【今後】事務局スタッフを増強し、人づくり、資金づくりに力を注げる体制を整える。
- ・【今後】支援者のデータベースを整え、適切なタイミングで寄付の依頼やお礼ができる仕組みを導入する。

### ■人づくり

- ・【これまで】体験教室等の参加者へのリーダー養成講座受講の呼びかけを強化し、2年間で受講者が1.5倍に増えた(2014年度30人→2016年度45人)。
- ・【これまで】連携する大学を3大学から6大学に増やし、インターンやボランティアに参加する学生が2年間で2倍に増えた(2014年度40人→2016年度80人※延べ人数)。
- ・【今後】リーダー向けに、ひとり親家庭や障がいをもつ子どもの状況などを学ぶための研修会を実施する。
- ・【今後】ボランティアの交流の場をつくり、情報交換ができるようにする。

### ■資金づくり

- ・【これまで】事業の趣旨と合致する助成金に申請し採択された(目標2件に対し、3件応募し2件採択された)。
- ・【これまで】当学校の運営に対する寄付を募集した(目標30万円に対し、結果40万円が集まった)。
- ・【今後】「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」への助成金申請のほか、他の助成金への申請を模索する。
- ・【今後】ひとり親家庭向けのプログラム実施のための事業寄付を募集する(目標50万円)。